

レポート DCU-F 1 3 2W

エンクロージャー製作の契機

8センチアルニコウッドが発売された頃から企画が気になっていた該当商品です。御社HP上では発売直後で既に品切れ表示だったため神田オオイズミ有線にて購入しました。店内では某マアク・オウディオ製の14センチ限定品が販売されており、試しに両商品を試聴しましたが価格がほぼ同じの製品で今回は御社製132Wに軍配といった感覚でした。F132Wのエンクロージャーについては製品仕様が公開されて以降、密閉式箱の作成を意識していました。

製品の所感

DCU-F 1 3 2Wですが、販売店で比較試聴したときにその再生音情報量の多さが印象的でした。しかし持ち帰り考えるとマグネット部が大きくしかも重め感が……。仮箱に放り込んで音出しすると好感触のユニットでしたが、このユニット実はものすごくデリケートで、良く言えば「繊細で素直」、悪く言えば「気難し屋」と言った感じ。吸音材の量で音が変わるのは当たり前ですが、吸音材の材質でも如実に変わるユニットは久々で、種類と繊維密度で結構変わります。音楽としては高域も十分に再生されているのですが、曲によっては物足りなさを感じます。ちなみに114Sをアドオン追加再生で試してみましたが小生の好みにならず、114Sはまたもやお蔵入りになりました。ウッドコーン部は木目模様が双方近似でとても見栄えが良いです。今回はMDFでの試作箱に着色塗装仕上げで使っていますが、集成材での作り直し或いは近い将来131Wをスクーカーとして3Wayユニットを製作するかもしれません。ユニットからの音のイメージは緻密・濃厚という感じで解像度が高く、広がる音場を作り出し主張しすぎない音像が両耳に展開されます。製品はかなり高価と思いますが価格相応或いはそれ以上と感じ10周年記念作として十分に良い製品だと思います。

スピーカーシステム新製作（試作箱を着色塗装して使用）

エンクロージャー 1組

作品名：-蒼のキューブ- おぢぢの脇差

板材：MDF材 主材板厚 18mm

外形：240(W)×390(H)×260(D)mm

容積 約 13L、重量 約 10Kg

密閉／バスレフ切替可能式箱

吸音材：純ウール材（かなり多めに使用）

外観・構造・ネットワーク構成

別途図面に記載

ユニットシステムの試験調整音源機器等

1： CD (Audio/Acoustic Technical CD)

- 2 : アナログチューナー(Luxman 5T-10)の FM 音源
- 3 : オシロスコープ、スペアナ、シグナルG & 測定マイク(一時的借用)

雑言

今回の箱は主に自宅内机脇に設置して1 m以内の近距離で聞くためのユニットシステムとして設計製作しました。故に耳に入るのはユニットからの直接音要素が大きく、低域再生は犠牲になりますが密閉式での再生音は緻密でバスレフ式よりも上質な中低域再生が楽しめます。とは言え2~3 m以上の距離になると聴感上、バスレフの方に軍配が上がり、結果、密閉/バスレフの変更可能な試作箱になりました。フロント式、リア式双方を試作しましたが、外観意匠の好みはリアバスレフ式でした。

今回の製品は外箱の品名シールからでもその意気込みが感じられます。金ですよ、金色ラベル(笑)。開封した本体は製品見本と異なりマグネット接合部にシーリング、止めネジもシーリング。何か問題があったのかな?と思いつつでしたが気にしない事にしました。ちなみに仮箱(試験用箱)に最初ネジ止めして音出し確認中、箱が倒れたらバッフル板のMDFがその自重と転倒衝撃に耐えられずいきなり破損。経年変化含みにせよこの自重は侮れず、以降試作箱は内部にマグネット部を支える支柱を加えることにしました。

アルニコスピーカーに高音域をTWで追補するのも何だかなあ、と思いつつでしたが、実際に追加するとやはり高域が気持ちよい位に伸びて聞こえる曲もあるので結局追加する形にしました。ただフルレンジ一発には定位の良さが有り、アドオンの使うのも当然魅力、132Wをウーハーとして2wayで試してみたらこれも有りでした。この箱はアドオンを除く2way鳴動では中高域が少し手前に音像が定位してこれが中々に味があります。

吸音材について、綿(コットン)はともかくウール材100%は、大量に購入するには些か値が張り、どうするか悩んでいたなら繊維問屋街で購入するのはどうか?との話がありました。東京においては日暮里(ニッポリ)の間屋街が有名らしく、スピーカー専門店の半額程度以下で純物を入手する事ができます。休日には手芸服飾趣味のご婦人、子女で賑わう街で、小生はどう見ても場違いの雰囲気でした。ちなみに108円ショップでも端布は購入出来る時世であるようです。今回の吸音材の調整は~底が見えにくかったと言うか、通常ではある程度の量と貼る箇所調整の限界を感じるのですが、密閉/バスレフ双方のどこで妥協というか、もっと良くなるかなという感覚が無くならずで、結局最後には怒られました。

小生などはアナログ盤音源をWAVEファイル化したPCM音源やFMラジオ音源を聞くのが殆どで、最近のハイレゾ高音質音源を改めて購入し聞くことはまずありません。試聴用システムでの高音質音源再生は比較参考程度にはなりますが、実際に自宅から持ち込んだ音源を再生して貰うと違和感に困惑する商品が結構あったりして、昔に比べると試聴は当てにならない事が多くなったように感じます。音の善し悪し好き嫌いは突き詰めれば聞く人個人の感性という事なるのでしょうが。ともかくも今回の箱製作・調整は時間が掛かったと言うか迷いまくりましたね~。しかしながらとても楽しいクラフトの時間を満喫できました。最後になりますが、創業10周年誠におめでとうございます。

以下添付写真



フロント・リア&お蔵入りの114S



ペア正面から



暗めで撮影



フロントバフレフ型試作機 2 のバッフル板変更箱と一緒に



今回レポートにはしていない一寸小さめ試作機 2 の着色塗装箱ペア(参考)